

菊川西中だより

校長室の窓

**「先輩と後輩の
高めあいの関係」
はお互いへの
尊敬から！**



後1ヶ月で中体連夏の大会がスタートします。3年生の子どもたちは青春の1ページを完全燃焼で締めくくろうとがんばっています。この時期になると、自分が部活動顧問をしていたころのことをよく思い出します。私があるとある中学校で女子バスケット部の顧問をしていた時の話です。私が経験した何校かの部活では、3年生が1年生をかわいがり、2年生に厳しく当たることが多かったように思います。2年生は「1年生の時の3年生は優しかったのに新3年の先輩は怖い」、「1年生ばかりかわいがられてずるい」という思いが渦巻き、自分たちの上下の学年の子どもたちに対する反発が生まれます。そして、この2年生が3年生になると新入生をかわいがって、新2年生に厳しく当たるといふ悪循環が形成されていきました。

お話している中学の3年生チームは小笠地区で優勝したのですが、ある時私に「私は1年生が心配。あの子たちって、2年生に引っ張られて強くなっているけど、2年生が3年になって引退したらその後ガタガタになっちゃいそう。」と言った子がいました。『良く見ているな。』私は心の中で思いました。実際、私もそう思っていました。

ところで、この年の3年生は背の低い子が多く、一番長身のセンタープレーヤーでも162cmしかありません。この子達は1試合を全て、オールコートマンツーマンと呼ばれるシステムで走り回ることによって背の低さをカバーしてきました。一方、2年生は170cmを越える長身の子が2人、一番背の低いガードの選手ですら164cmです。このチームは、背の高いセンターがハイポストと呼ばれる位置をがっちりキープして、そこからシュートを決めるのが得点源でした。この対照的な2代のチームは小笠ではそれなりに強かったのですが、他地区の強豪チームとの対戦では、それだけで勝てるほど甘くはありません。子どもたちの心の中に「私たちのチームにも170cmのセンターがいたら……」「私たちにも先輩みたいなドリブルのうまいガードがいたら……」という思いが渦巻いたことでしょうか。そしてその思いは「先輩ってすごい」「2年生ってすごい」というお互いへの『尊敬』に変わっていきました。私は、お互いへの尊敬をもたらした背景には「自分たちの持っているものだけで、やれることは全てした」という思いがあったと思っています。子どもたち一人ひとりが全力でやったからこそ2年生は3年生の、3年生は2年生の『すごさ』を素直に感じる事が出来ました。よく「お互いの良さを見つけ合おう」と言いますが、その前に「目いっぱい努力する」ことが必須です。目いっぱい努力しない人から「あなたってすごいね」と言われてもそれは単なるお世辞に過ぎません。

菊西中に帰ってきて2ヶ月が経ちました。その間に私は部活動でも生徒会活動でも授業でも3年生のがんばりをたくさん見ました。3年生のがんばりは、すぐに下級生の「尊敬」に変化すると思います。その時、私は下級生に言ってやろうと待ち構えています。「3年生がすごいって思えるのは君も目いっぱいがんばっているからだよ。精一杯の努力をしていない人は、他の人がすごいなんて思えないからね。」このようにして、子どもたちが3年間しか在学しない中学校ですが、学校やチームの「伝統」が後輩に引継がれていきます。(文責：校長)